

比較級の導入で -er と more の使い分けルールを最初に配ると、生徒は「暗記事項が2つ増えた」と受け取ります。この授業案は順番を逆にします。まず -er だけで遊び、長い形容詞に -er をつけて「言いにくい！」を全員で体感したところで、more という発明品を渡す——ルールを暗記ではなく必然として出会わせる構成です。

この教材で解決できる悩み

- more taller 型の混在エラーが定着してしまう
- -er / more の使い分けを「音節数」で説明しても伝わらない
- 比較の導入が例文の羅列になり、盛り上がらない

教材の概要

項目	内容
対象	中学2年(Here We Go! 2 Unit 7)
文法項目	比較級(-er / more、than)
形式	授業案A4・3ページ＋クイズお題リスト
所要時間	50分×1コマ
準備物	定規・ひも等の計測グッズ、実物ペア(ペン2本・教科書2冊など)

授業の流れ(50分)

導入: どっちが〇〇？実測クイズ(15分)

実物を2つ見せて Which is longer, this pen or this pen? と問い、挙手で予想→その場で実測して決着します。

- Which is longer? (ペン2本→定規で測る)
- Which is heavier? (教科書と辞書→手秤で代表生徒が判定)
- Which is older, this school or 〇〇 Junior High? (創立年を発表)

「予想→実測」の構造にすると、答え待ちの間ずっと比較級が飛び交います。5問で -er の形は耳に馴染みます。

山場: -erの限界を体感させる(10分)

次のお題は Which is popular...? 「じゃあ今までと同じように言ってみよう。popularer!」と全員で言わせます。言いにくい。教室が笑う。「長い単語に -er は無理がある。そこで昔の人が発明したのが——」と more popular を導入します。「重い荷物(長い形容詞)は台車(more)に乗せる」の一言でイメージ化。ルールが物語になった瞬間、more taller(台車に乗せた上に -er)が「二度手間で変」だと直感できるようになります。

展開: クラス実態調査(20分)

ペアで Which is more popular in our class, dogs or cats? のような調査質問を1つ作り、教室を歩いて10人に聞き、結果を比較級の文で発表します(Dogs are more popular than cats in our class!)。実測クイ

ズの「数字で決着」の快感をそのまま生徒の活動に引き継ぐ設計です。

まとめ(5分)

本時の文から -er 組と more 組を仕分けして板書を完成。最上級(-est / most)は「同じ物語の続き」として次時を予告します。

実測クイズのお題に、身長・体重・足の速さなど身体に関わる比較を入れないでください。物と数字(値段・古さ・長さ)に限定するのが安全です。生徒作の調査質問も、作成前に「人を比べない・物と好みを比べる」のルールを一言添えておくと安心です。

定着への接続

翌時の帯活動は「実測クイズの再演+as ~ as」(測ったら同じだった! → as long as)が自然につながります。ランキング形式の活用・応用ワークシート(比較級・最上級)はこのサイトの別記事で提供しています。